



図書たより

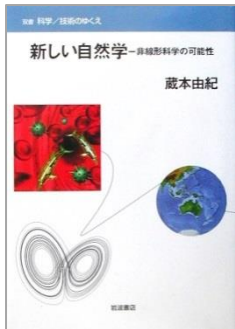
NO. 15

Apr 2016

明治大学中野図書館

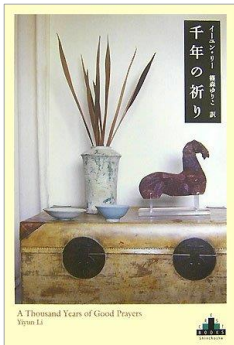
図書館員オススメの本

【蔵本由紀著『新しい自然学：非線形科学の可能性』岩波書店、2003】



著者は、科学の知のあり方がいびつであるという。天体の運動、極微な世界などについてはかなりよくわかっているが、地上の複雑現象、日常的な現象についてはよくわかっていないといったことだ。そこで著者は、気象、海洋、生命といった複雑なものをとらえるには、周辺制御の基礎科学が必要だという。物の形状や運動は物そのものではなく、周辺(より上のレベル)の制御が働いている、それがどうなっているかを解明する科学である。また、それはモノ(主語)よりもコト(述語)のパターンを解明する科学でもある。そのような科学を著者は「新しい自然学」と呼び、非線形科学に大きく重なるものとする。不可逆、熱対流、非平衡開放系など非線形現象の科学である。さらに、著者は科学の知のいびつさは、人間の知全般のいびつさにもつながっているという。複雑なものを解明する方法と姿勢は、人間と科学の暴走を止めることにも一役買うのではないだろうか。「新しい自然学」は現象数理学とも大きく重なる、だから、この本は現象数理学を学ぶ意義を教え、さらに考えさせてくれる哲学的な本でもある。

【イーユン・リー著『千年の祈り』新潮社、2007】



イーユン・リーを知ったのはつい最近のことである。来日していた彼女のインタビューをたまたまラジオで聞き、作品を読んでいないのにその穏やかな語り口と、母語の中国語ではなく英語で作品を書いているという不思議に惹かれ、デビュー短編集である本書を手にとった。1972年生まれのエーユン・リーは北京大学卒業後、アイオワ大学大学院で免疫学の修士号を取得しているが、研究のかたわら英語の上達を目的に小説を書き始めたところ、本当は作家になりたいのだと気づきデビューしたという異色の経歴の持ち主だ。本書『千年の祈り』は10篇の短編集であるが、その作品のどれもが抑えられた筆致で人生の細やかな機微を描き出している。各作品は中国を母国とする著者ならではの視点で描かれているが、それが英語で書かれているからこそ表現できるという点が面白い。読み終わった後、もう一度読み返したくなる珠玉の短編集である。

【狩野博幸、河鍋楠美著『反骨の画家 河鍋暁斎』新潮社、2010】



河鍋暁斎は幕末・明治にかけて活躍した浮世絵師・日本画家である。

2015年に三菱一号館美術館で「画鬼暁斎 幕末明治のスター絵師と弟子コンドル」展が開催され様々な雑誌に取り上げられていたので、知っている方も多いだろう。驚くのは絵の多彩さ。古典的な山水画、美人画、動物画、幽霊・妖怪画、春画、コミックのような戯画、挿絵やデザイン。一人の人間とは思えない幅広さだ。暁斎は幕末・明治の激動期を生き、権力におもねらない風刺画で投獄されたこともあった。本書はコンパクトだがフルカラー、時代を経てモカ強い暁斎ワールドを味わうことが出来る。表紙の化け猫もちよっとかわいい。

【都甲幸治ほか著『きつとあなたは、あの本が好き。：連想でつながる読書ガイド』立東舎、2016】



芥川賞作家や翻訳家、書評家など、文学を生業とする10人のプロたちが、自由かつ豊かな発想力で作家・作品を案内する読書ガイド。全8章から成り、「〇〇が気になる人に」と題された各章で取り上げられる作家は、それぞれ、村上春樹、ルイス・キャロル、大島弓子、谷崎潤一郎、コナン・ドイル、J. R. R. トールキン、伊坂幸太郎、太宰治。さらに、彼らの作品から連想される作家たちを合わせると、登場する作家は30人以上。名作からベストセラー、日本から海外、ファンタジーからミステリー、さらには日本近代文学まで一書かれた時代、場所、ジャンルを軽々と飛び越えて繰り広げられる対談が面白い。気になる作家が出ている人、読書の幅を広げたい人におすすめの本だ。

【柳川範之著『東大教授が教える独学勉強法』草思社、2014】



高校に行かず大学は通信制、独学で東大経済学部教授になった著者が教える独学のススメ。これから大学での勉強のなかでもおもしろいと思える分野やテーマを見つけたり、授業の課題に取り組んでいくと思う。大学での課題は選択の余地が大きいだけでなく、内容も多様性に富んでいる。そこで今までの受験勉強や資格試験など明確な答えがある勉強の方法ではなく、自分のタイプや個性に応じて、自分に合った勉強の仕方を発見して、学び・考えていくことがとても大切だ。また、自ら学ぶ習慣をつけることは、大学だけでなくどんな仕事に就くうえでも不可欠な要素である。

勉強の本質の「考えること」を、テーマ設定から資料収集、成果のアウトプットまで、今後こういったことに応用したりできるのか、という考え方を説いている独学のメリットを学者らしく、またわかりやすい言葉で簡潔に書かれている1冊である。

図書館からのお知らせ

★ 図書館内でゼミガイダンスを行います。

ガイダンス中は説明等で

騒がしくなることがあります。

申し訳ありませんがご了承ください。